



宮嶋 佑典 (みやじま ゆうすけ)

地圏資源環境研究部門 地圏微生物研究グループ

今年度より博士型研究員として採用されました。宮嶋佑典と申します。京都生まれ、長野県安曇野市出身です。松本深志高校卒業後、学部から学位取得までを京都大学地質学鉱物学教室で過ごし、東京大学地殻化学実験施設でのポスドクを経て、現在に至ります。

海底を循環する流体は、地圏微生物の活動と天然ガスなどの燃料資源生成、地震活動を相互に関連付ける重要な役割を担っています。海底から湧出する水を調べることで、それらの海底プロセスを明らかにする手がかりが得られます。私はこれまで、海底から湧出するメタン冷湧水から沈殿した炭酸塩岩を研究してきました。炭酸塩岩に含まれる動物化石の研究にはじまり、次第に微生物の分子化石や元素・同位体組成といった岩石の地球化学的な特徴をもとに、過去のメタン生成プロセス、湧出流体の起源を探ることができるのではないかとという方向性に興味がシフトしていきました。幼少期からの化石好きが転じて、フィールドで化石や岩石を発見し、それを材料に多角的な分析を行い、解釈していくプロセスにやりがいを感じています。

地圏資源環境研究部門地圏微生物研究グループに配属されたことで、実際に現在の海底メタン冷湧水にアクセスし、炭酸塩岩だけでなく堆積物間隙水や生きた微生物も扱うことができるようになりました。私が特に興味があるのは、海底下地殻内のダイナミクスや水・物質循環が、メタン生成菌のような地圏微生物の活動、そして燃料資源の生成・集積にどのような影響を与えているのかを明らかにすることです。今後は皆様のご指導を賜りながら、分野の垣根を超えた新しい手法を積極的に取り入れ、学際的な研究を展開していければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

写真はサハリン州にて。



石井 祐次 (いしい ゆうじ)

活断層・火山研究部門 地質変動研究グループ

活断層・火山研究部門地質変動研究グループの石井祐次です。2018年3月に名古屋大学環境学研究科で学位を取得し、同年4月から地質情報研究部門海洋環境地質研究グループに学振PDとして在籍しておりましたが、今年の4月から研究員として働くことになりました。

私の研究の主な関心は河成地形で、特に完新世の氾濫原の発達過程に着目してきました。氾濫原の堆積物は河川活動の記録であり、それを読み解くことで海水準変動や気候変動に対する河川の応答を明らかにすることができます。学生時には放射性炭素年代測定を用いて国内のフィールドにおいて研究をおこなってきましたが、学振PDの2年間ではOSL年代測定を習得し、カンボジアのメコン川の氾濫原の発達過程の解明に取り組みました。

今後の数年間は、更新世の河成段丘を用いた隆起速度の推定におけるOSL年代測定の適用に関する研究

を主におこなう予定です。将来的には、数万年～数十万年といった長い時間スケールでの河成地形の変化を解明していきたいと考えています。





有元 純 (ありもと じゅん)

地質情報研究部門 海洋地質研究グループ

はじめまして、有元 純と申します。今年3月に東北大学大学院理学研究科地学専攻で学位を取得し、4月から働いています。専門は過去1億年の層序・古生物学(浮遊性有孔虫)ですが、堆積学、構造地質学、年代学、地球化学、生態学などの関連分野に興味をもっています。東北大学在学中は、野外調査や堆積物コア試料分析に基づいて、白亜紀～古第三紀温暖期に形成された地層の層序・年代、および古海洋環境の復元に関する研究を行ってきました。安定炭素同位体比層序や化石層序に基づく層序対比に、凝灰岩中のジルコン U-Pb 放射年代分析を組み合わせることで、恐竜化石を産する岩手県の上白亜系や、天草炭田地域の始新統の地質年代解像度の向上に取り組んできました。また、微化石群集組成や化学組成から、気候・海洋環境変動と生物応答についても研究してきました。これからは、沿岸域の地質・活断層調査プロジェクトにおいて、反射法音波(地震)探査による海域地下地

質構造の調査、および紀伊水道の沿岸域地質図作成を担当します。また、微化石をツールとした層序・年代・環境論に加え、地質構造探査による物性・空間論を統合解釈して、地質現象の総合的理解を目指します。人類活動から気候変動、地殻変動まで幅広い時空間スケールで、日本列島を中心に世界へ展開する地史の研究と社会貢献を、みなさまと協力して推進していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



羽田 裕貴 (はねだ ゆうき)

地質情報研究部門 平野地質研究グループ

地質情報研究部門平野地質研究グループの羽田裕貴と申します。2019年3月に茨城大学大学院複雑系システム科学専攻で博士の学位を取得し、2020年4月から特別研究員として産総研に所属させていただくことになりました。

明治初期に日本へ地質学が導入されてから、千葉県地層では数多くの先駆者たちがその分布や重なり、年代を明らかにしており、日本で最も研究されている地域の一つと言えます。私は、これまでに千葉県の地層を対象に、過去300万年間の北太平洋の古海洋と古地磁気変動の復元をテーマに研究を行ってきました。地層から産出する有孔虫化石の安定同位体比分析や堆積岩の残留磁化測定を非常に細かい時間分解能で行うことで、百数十年～数千年スケールでの海洋環境・地磁気変動を捉えることに成功しました。また、千葉の地層を77万年前の地質時代境界の国際模式地層に申請する活動にも参



加させていただき、そのポテンシャルの高さを世界に示すことができました。

GSJでは、主に徳島平野・和歌山平野での地質調査や層序の解明に取り組みます。新天地での研究でどのような成果を出せるのかワクワクしています。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。